

十日町市博物館 年報

— 第 8 号 —



TOPPAKU

令和3年度

刊行にあたって

当館は昭和54年（1979）の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動をしてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）を生み出しています。令和3年6月1日、当館は新館オープン1周年を迎え、記念事業を実施しました。本書をご覧いただき、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	2
3. 新館オープン1周年記念事業・博物館愛称募集	3
4. 新型コロナウイルス感染症対策	3
5. 予 算	4
II 事業の概要	5
1. 教育普及・展示事業	5
2. 資料収集・調査研究・保存対策事業	8
3. 資料の貸出	9
4. その他の事業	10
5. 博物館友の会	11
III 調査・報告	
報告「博物館展示における三次元計測データの活用」 菅沼 亘	12
施設平面図	16
利用案内	17

例 言

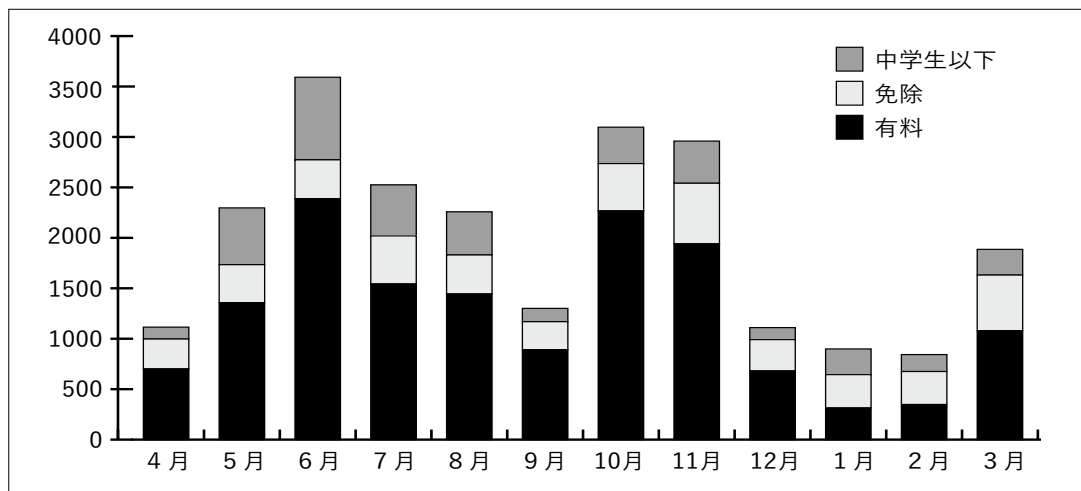
1. 本書は、十日町市博物館の令和3年度・事業報告である。
2. 本書に掲載されている写真の無断掲載（転載）を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3. 本書の編集は菅沼 亘（学芸員）が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。お礼申し上げる。

I 館の運営

1. 来館者の状況

①月別の推移

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開館日数	26	27	25	27	26	26	27	26	23	24	24	27	308
一 般	有 料	701	1,358	2,388	1,543	1,444	892	2,267	1,941	681	314	348	14,957
	免 除	296	376	385	476	386	277	469	600	310	330	327	4,783
計	997	1,734	2,773	2,019	1,830	1,169	2,736	2,541	991	644	675	1,631	19,740
中学生以下	118	563	819	506	428	132	361	418	119	255	168	255	4,142
合 計	1,115	2,297	3,592	2,525	2,258	1,301	3,097	2,959	1,110	899	843	1,886	23,882



月別来館者一覧

②視察と団体の受け入れ状況

小 学 校	
1	吉田小学校 5・6年生
2	十日町小学校 3年生
3	松代小学校 3・6年生
4	上野小学校 3・4年生
5	水沢小学校 6年生
6	西小学校探検クラブ
7	西小学校 2・3・6年生
8	千手小学校 6年生
9	川治小学校 3・4年生
10	中条小学校 3・6年生
11	鑑島小学校 3・6年生
12	田沢小学校 3年生
13	東小学校 3年生
14	ふれあいの丘支援学校 6年生
15	まつのやま学園 3・4年生
16	燕市立島上小学校 6年生
17	燕市立燕東小学校 6年生
18	小千谷市立千田小学校 6年生
19	小千谷市立東小千谷小学校 6年生
20	長岡市立黒条小学校 6年生
21	長岡市立新町小学校 6年生
22	長岡市立越路西小学校 6年生
23	南魚沼市立後山小学校 5・6年生
24	三条市立上林小学校 6

小 学 校	
25	新潟市立升潟小学校 6年生
26	三条市立栄中央小学校 6年生
27	長岡市立中之島中央小学校 6年生
28	小千谷市立和泉小学校 6年生
29	新潟市立五十嵐小学校 6年生
30	新潟市立黒崎南小学校 6年生
31	長岡市立柳尾東小学校 6年生
32	東京都江戸川区第二松江小学校 5年生

中 学 校	
1	中条中学校 1年生
2	ふれあいの丘支援学校 中学部
3	ふれあいの丘支援学校 中学部 1年生
4	十日町中学校 1年生
5	まつのやま学園 9年生 (中学 3年生)
6	新潟市立亀田中学校 3年生
7	三条市立第四中学校 3年生
8	新潟市立新潟柳都中学校 3年生
9	三条市立第二中学校 1年生
10	三条市立下田中学校 3年生
11	新潟市立関屋中学校 3年生
12	柏崎市立南中学校 3年生
13	長岡聾学校 中学部 3年生
14	妙高市立妙高高原中学校 2年生

中 学 校	
15	沼田市立沼田南中学校 3年生
16	新潟市立木戸中学校 2年生
17	燕市立燕北中学校 2年生
18	長岡市立西中学校 2年生
19	南魚沼市立大和中学校 外国籍生徒

市 内 保 育 園	
1	天使幼稚園

高校・専門学校・大学	
1	川西高等特別支援学校
2	十日町看護専門学校
3	翠江高等学校
4	中条高等学校
5	佐渡総合高等学校
6	久比岐高等学校
7	長岡造形大学 古美術研究旅行
8	長岡造形大学 芸員課程履修者
9	加茂農林高等学校

子ども関連団体	
1	なかさと夏休み寺子屋塾 (田沢小児童)
2	川治・山本東地区子供会

小・中学校・高校・大学ほか一覧

そ の 他 団 体 名		そ の 他 団 体 名	
1	八十二文化財団（長野県）	27	勝田電設工業㈱（東京）
2	いつ和グループ りんず・まつや	28	上越市東本町小学校教員
3	歴史の旅 クラブツーリズム（東京）	29	西遊旅行（大阪府）
4	信州名匠会（長野県）	30	新潟県倫理法人会（村上トラベルサービス
5	寺友&写経の会 タビックスジャパン新潟支店	31	南魚沼市観光協会
6	チャレンジ夢クラブ（柏崎市）	32	青山きもの学院青山校（東京）
7	新潟縄文ものがたり満喫ツアー 東部トップツアーズ㈱新潟支店	33	ワールド航空サービス（東京）
8	トラベルマスターズ（新潟市）	34	国宝火焰型土器の世界 新潟交通の旅くれよん
9	古代史紀行越後 南海国際旅行（大阪府）	35	阪急交通社クリスタルハート
10	新潟県国際観光推進課	36	長岡市立中央図書館文書資料室一行
11	新潟県高等学校人権教育、同和教育現地研修会（中越地区）	37	長野県日滝原土地改良区
12	新潟県博物館協議会運営研究会	38	小千谷市文化財審議委員
13	ハミングツアー（新潟市）	39	㈱コロネット
14	まちづくり学校主催「まち歩き」	40	大塚オーミ陶業㈱
15	ユーラシア旅行社（東京）	41	新潟県観光局副局長一行
16	越後魚沼ガストロノミーの旅 ワールド航空サービス（東京）	42	駐新潟大韓民国総領事館総領事一行
17	縄文を旅する新潟・上越の旅 ワールド航空サービス（東京）	43	新潟県観光局国際観光推進課
18	鮎川義塾 新潟校	44	凸版印刷㈱
19	温泉を楽しむ会（新潟市）	45	新潟県教育長一行
20	魚沼市教育振興会小学校社会部	46	国土交通省北陸信越運輸局長一行
21	魚沼地域福祉会なないろ	47	公益財団法人雪だるま財団
22	埼玉県久喜市東鷲宮小学校教員	48	学校法人桜美林学園 清水安三記念館
23	群馬県立歴史博物館	49	文化庁
24	十日町地域振興局地域整備部	50	クロアチア大使一行
25	見附市ファミリア(公民館事業)	51	日本遺産シンポジウム講師一行
26	行政書士会 前橋支部	52	日本遺産関連モニターツアー

その他の団体一覧

(興野 裕貴子)

2. 博物館協議会

協議会は年に2回開催され、各回の詳細は以下の通りである。委員は10名で、今年度は2年任期の改選の年となった。

第1回：令和3年6月30日(水) 13：30～15：30 委員9名出席

- ・令和3年度博物館事業について
- ・夏季特別展「形をうつす」見学

第2回：令和4年3月22日(火) 13：30～15：30 委員9名出席

- ・令和3年度博物館事業の実施状況について
- ・令和4年度博物館事業計画について
- ・冬季企画展「明石ちぢみと十日町小唄」見学

氏 名	職業・所属団体（役職など）	備 考
宇都宮 正 人	十日町市博物館友の会 会長	委員長、社会教育
市 村 正 史	十日町市文化協会連合会 副会長	副委員長、社会教育
星 名 大 輔	十日町青年会議所 専務理事	社会教育
上 村 み ほ	十日町市立西小学校 校長	学校教育
須 藤 高 志	初任者研修拠点校指導教員	学校教育
渡 邊 里 沙	十日町市立水沢小学校PTA	家庭教育
植 木 紀 子	十日町市立鑑島小学校PTA	家庭教育
佐 野 沙也加		公募
高 橋 智恵子		公募
滝 沢 梢		公募

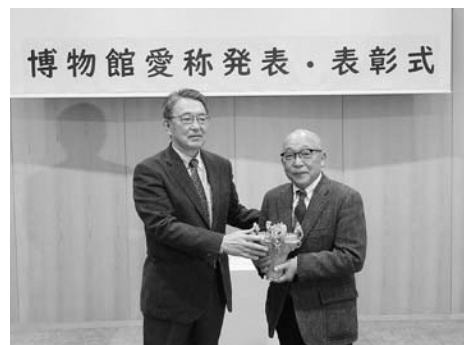
博物館協議会委員一覧（任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日）

3. 新館オープン1周年記念事業・博物館愛称募集

- ・愛 称：TOPPAKU（とっぱく）
- ・提 案 者：西分慶雄さん（東京都中央区）
- ・提案理由：十日町の「十」と、博物館の「博」で「十博」。これを「とっぱく」と読み、ローマ字表記とした。
- ・選考理由：ネーミングの響き、斬新さ、覚えやすさなど、様々な観点から総合的に選考。名前から施設をイメージしやすいことや、シンプルな響きがわかりやすく、親しみやすい。ローマ字表記は洗練された印象がある。
- ・応募期間：令和3年6月1日(火)～7月5日(月)
- ・応募総数：514作品（うち市内175作品、県内107作品、県外232作品）
- ・1次選考：市内7団体から選考、商標登録の有無調査後9作品に絞る。
- ・2次選考：9作品の中から、7人の選考委員にそれぞれ3作品を選んでいただき、来館者の人気投票も行い最優秀賞1作品、優秀賞3作品を決定。
- ・愛称選考委員会：令和3年10月28日(木)
- ・愛称発表・表彰式：令和3年11月7日(日)



愛称選考委員会



愛称発表・表彰式

4. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、以下の対応を行った。

①入館等の制限

- ・団体入館者の人数コントロール（事前予約による同時入館人数の制限）
- ・企画展示室同時入室を20人程度に制限

②感染症対策

- ・非接触型体温計による入館時の検温
- ・風邪症状のある方及び37.0℃以上の発熱者入館制限
- ・入館時のマスク着用徹底
- ・館内の3密回避の呼びかけ
- ・入口及びトイレ出入口付近、各展示室内に手指消毒液の配置
- ・ポリエチレン製使い捨て手袋の配置
- ・ゴミ箱の撤去（ゴミの持ち帰り推奨）
- ・1日2回の巡回消毒の実施
- ・閉館後の体験型展示消毒の実施
- ・音声ガイド端末のフィルムラッピング（イヤホン貸出中止）
- ・受付に飛沫防止シールドを設置
- ・空調システムの外気導入最大化

（笛田 晃）



入館時の検温



展示室入口での手指消毒



使い捨て手袋の配布

3. 予 算

令和3年度の予算は以下のとおりである。

(黒田 朋美)

歳入予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

款	項	目	当初予算額	補正額	補正後予算額
節	説	明			
14款 使用料及び手数料	1 項 使用料	7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	5. 博物館入館料		13,900	0	13,900
14款 使用料及び手数料	1 項 使用料	7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	10. 施設使用者使用料		408	0	408
15款 国庫支出金	2 項 国庫補助金	1 目 総務費国庫補助金			
1. 総務費補助金	101. 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業		9,001	0	9,001
15款 国庫支出金	2 項 国庫補助金	6 目 教育費国庫補助金			
6. 社会教育費補助金	363. 地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業補助金		0	1,129	1,129
21款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	博物館物品販売収入、物品使用料、施設使用者電気料ほか		11,711	0	11,711
計			35,020	1,129	36,149

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,763	0	6,763
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	415	0	415
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	629	0	629
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	558	64	622
10. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	23,712	749	24,461
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	4,433	0	4,433
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託 ほか	24,420	△749	23,671
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料、機器・車両リース、収蔵品管理システム利用料	1,166	0	1,166
14. 工事請負費	旧博物館電源低圧化工事	1,770	0	1,770
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46
26. 公課費	重量税	33	0	33
計		63,945	64	64,009

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	245	0	245
旧博物館施設維持管理経費（旧博物館低圧化事業含む）	3,615	△230	3,385
博物館施設維持管理経費（除排雪経費、コロナ対策経費含む）	34,917	294	35,211
教育普及・展示事業（特別展示会事業含む）	8,244	0	8,244
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,954	0	2,954
縄文文化発信事業	468	0	468
とおかまちスノーカントリーミュージアム魅力増進事業	13,502	0	13,502
計	63,945	64	64,009

II 事業の概要

1. 教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け中止となったため、今年度に延期する形で実施した。「縄文を学ぶ」をテーマに、8月の土曜日に全3回シリーズで開催した。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全3回で計61人の受講者があった（受講料無料）。

第1回：8月7日(土)「縄文造形を楽しむ―縄文時代の社会交流―」

井出 浩正 氏（東京国立博物館 教育講座室長）

第2回：8月21日(土)「土器から縄文食を探る」

宮内 信雄 氏（東京大学総合研究博物館 学術専門職員）

第3回：8月28日(土)「土器の出現と縄文時代のはじまり」

堤 隆 氏（明治大学黒耀石研究センター 客員研究員）



第1回講座の様子

古文書入門講座

本講座は古文書読解の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。今年度は「御仕置五人組高附帳」、「上組村定」、「御巡見使様御料理献立」などをテキストとしている。6月から令和4年3月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全17回である。今年度の受講生は計12人、内4人が新規の申し込み、その他は昨年度からの継続であった。また、受講生よりテキスト代（2,000円）を徴収している。



講座の様子

子ども博物館

本事業は、小学生を対象とした体験教室である。今年度は、8月22日(日)に①「土器拓本しおり作り」（参加費300円）、12月18日(土)には②「縄文土器消しゴム作り」（参加費500円）を実施した。①では自分でとった土器の拓本をラミネート加工（名刺サイズ）して、しおりを作っている。②ではお湯で温めると柔らかく、冷めると固くなるプラスチック粘土で土器の文様の型をとり、消しゴムを作った。材料は、電子レンジで簡単にできる消しゴム作りキットを使用している。各回とも定員10名（事前申込）で、参加者は親子合わせて計8名であった。どちらも縄文土器の文様を活かしてオリジナルのものを作る体験教室である。

（本柳 美紀）



縄文土器の拓本とり



縄文土器消しゴム作り



縄文土器文様の消しゴム

②展示事業

新館オープン1周年記念・夏季特別展「形をうつすー文化財資料の新たな活用ー」（日本博参画事業）

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は6月1日(火)から7月4日(日)の34日間、観覧者数は計4,377人である。当館では東京国立博物館との共同研究により、館所蔵の国宝「火焰型土器」(指定番号1)と「王冠型土器」(指定番号15)の高精細複製品を製作し、常設展示室で「触れることのできる国宝」として活用している。本展では、三次元計測データを利用して製作された高精細複製品と実物資料(一部)を展示し、文化財資料の新たな活用を紹介した。重要文化財「遮光器土偶」(東京国立博物館所蔵)と国宝「火焰型土器」の国内初競演が実現している。

展示構成は、①「複製品とは」、②「高精細複製品ができるまで」であり、また、複製品に触れるコーナーを設置した。①では従来の型取りによる複製品の製作方法を紹介するほか、国宝指定の土偶6点の複製品が勢ぞろいしている。②では精細複製品の製作工程について解説し、その際に使用された石膏型などを展示した。複製品に触れるコーナーでは、東京国立博物館所蔵の重要文化財「遮光器土偶」・「みみずく土偶」、「ポーズ土偶」のハンズオン用複製品のほか、「触れることのできる国宝」を展示している。



夏季特別展の展示状況

会期中の6月20日(日)には、記念イベント「形をうつす」として、製作実演「現代の技術で生み出す国宝・火焰型土器」とワークショップ「オンリーワンの火焰型土器突起を作ろう!」を開催し、ワークショップには14人の小学生が参加した。なお、本展では文化庁の「令和3年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」を活用している。



夏季特別展チラシ

夏季企画展「器の移り変わりー縄文から現代までー」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は、7月27日(火)から8月29日(日)の34日間、観覧者数は計2,562人である。本展では、館所蔵の縄文・弥生土器、古代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼、近世から現代の陶磁器など、普段は収蔵庫に保管されている資料を一堂に展示した。



夏季企画展チラシ

新館オープン1周年記念・秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は、10月2日(土)から11月14日(日)の44日間、観覧者数は計4,804人である。

岡本太郎は、1951年(昭和26)に東京国立博物館で開催された「日本古代文化展」を訪れ、そこで縄文土器を見て、縄文に美を発見した。その後、東京近郊の大学や博物館を次々と訪れ、数々の縄文土器や土偶を自ら撮影している。これらの写真は、1956年出版の「日本の伝統」(光文社)に掲載された。本展では太郎が見て、撮った縄文時代の出土品とその写真を展示し、太郎のまなざしを通して見た縄文の美に迫っている。また、太郎は野沢温泉や十日町市内の日本そば店を度々訪れており、その関連資料も紹介した。



秋季特別展チラシ

展示構成は、①「すべては、ここから始まった」、②「岡本太郎が見て、撮った縄文」、③「岡本太郎と十日町」である。①では、太郎が1952年に「四次元との対話 縄文土器論」を発表した美術雑誌『みづゑ』（558号）や日本古代文化展の図録である『日本考古図録』（1953年）、太郎の著書『日本の伝統』などの文献を展示した。②では、太郎が東京国立博物館、明治大学考古学陳列館（当時）、東京大学人類学教室（当時）などで撮影した縄文土器・土偶とその写真パネルを一堂に展示している。③では、太郎が揮毫した掛軸や色紙、デザインしたスキー、贈られた作品など太郎にゆかりのある資料を紹介した。



秋季特別展の展示状況

10月16日(土)の午後には、記念イベント「岡本太郎と縄文を語る」を開催している。前半は、石井 匠氏（国立歴史民俗博物館研究員）の講演「岡本太郎と縄文人の神話的思考」、後半は山下裕二氏（明治学院大学文学部芸術学科教授）と石井氏との対談「岡本太郎の縄文発見」の2部構成とした。会場の十日町情報館視聴覚ホールに60人が参集している。また、株式会社現代芸術アトリエの協力により、岡本太郎関連グッズを集めた特設ショップを開設した。

冬季企画展「明石ちぢみと十日町小唄」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は、令和4年2月19日(土)から3月27日(日)の37日間、観覧者数は2,012人である。

「明石ちぢみ」は、明治後半から昭和初期にかけて「夏物といえば明石、明石といえば十日町」といわれ、十日町の名を全国にとどろかせた清涼感ある夏用の着尺である。このコマーシャルソングとして、昭和9年（1934）に「十日町小唄」（サツメモ節）が発表された。その後、昭和57年（1982）には国の「伝統的工芸品」に指定され、現在までその技術が受け継がれている。また、十日町小唄は春の「きものまつり」、夏の「大民謡流し」、冬の「雪まつり」では街中にそのメロディーが流れ、今も十日町の風物詩となっている。



冬季企画展チラシ



冬季企画展の展示状況

本展では、博物館友の会・きもの研究グループによる調査成果を活用し、展示の準備にもグループから協力を受けた。同グループは平成25年（2013）に発足し、博物館収蔵の着物資料の整理を手伝うかわら、銘仙、マジョリカお召、黒絵羽織、明石ちぢみ等、十日町織物の伝統と洗練された技術を後世に永く伝えるべく活動が続けている。本展は、当館の基本理念「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」を体現するものとなった。

特設展示「昔の道具」

市民から寄贈された昭和の道具類を集めた。会期は、令和4年1月4日(火)から2月6日(日)である。道具を使用されていた場面ごとに分けて展示し（日常生活、学校・職場、趣味・娯楽）、現在では失われつつある昭和の暮らしを紹介した。市内小学3年生の総合学習（昔のくらし）に伴う利用があった。



(菅沼 亘)

昔の道具展

③まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター1階の「まちの文化歴史コーナー」(愛称：HAKKAKE)において、博物館収蔵資料の展示を行った。今年度は以下の日程で収蔵資料を展示した。縄文土器の中に入った縄文土器(樽沢開田遺跡)(4/7～6/7)、古墳時代のツボ(柳木田遺跡)(6/9～8/2)、越中富山の置き葉(8/4～10/4)、動物意匠のついた縄文土器(10/6～12/6)、マジョリカお召とマジョリカ陶器(12/8～2/7)、弥生時代のカメ(城之古遺跡)(2/9～4/4)である。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが延期または中止になり、まちなか国宝展示は実施しなかった。(阿部 敬)

④博学連携

市内小学校の総合学習に伴い、縄文文化をテーマとした出前授業を実施した。

- ・ 鑑島小 土器作り体験：土器作り(7/13)、土器焼き(9/27)。
- ・ 中条小 食体験：市内飲食事業者の協力により、博物館の監修で児童が縄文メニューを考えて調理実習し、後日、給食センターから市内小学校の給食に提供された。笹山遺跡案内(9/17)、博物館解説(9/30)、季節と食の授業(11/25)、調理実習(12/21)、給食(3/9)。(笛田 晃)

⑤職場体験

新潟県立十日町高等学校松之山分校2年生1名を受け入れた。期間は、8月3日(火)から8月5日(木)である。体験内容は、開館・閉館作業、ミュージアムショップ商品準備、図書資料受付、収蔵庫掃除、発掘調査などを行った。(本柳 美紀)

2. 資料収集・調査研究・保存対策事業

①資料の収集

博物館では、市民等から十日町市に関係する民具・古文書・写真等の資料の寄贈を受け付けている。今年度は116件(資料番号15233～15348、令和4年3月31日現在)となった。

主な資料としては、民具資料(文政十三年間棟札、川舟の櫓、イカリ、シュロボシ、スカリ、スッペ、高下駄、炭火アイロン、蓄音機、SP盤レコード、コリントゲームなど)、十日町産地の着物資料(十日町明石ちぢみ、マジョリカお召、黒絵羽織、縫取縮緬など)、芸能関係資料(上川手歌舞伎上演用具、中尾一面神楽上演用具)、美術資料(永井白渢筆・十日町小唄歌詞掛軸、中山龍次筆・諏訪大神掛軸、明屋有照画賛・太子講掛軸など)、古文書等歴史資料(安養寺・古澤家資料、上野・星名家資料、上鰯池・庄屋家資料、清水村・庄屋家資料など)、昔の写真および写真画像CD(十日町雪まつりなど)、十日町森林研究所研究員資料(記録写真・日記・書簡等一括)などの記録資料がある。なお、永井白渢筆の十日町小唄歌詞掛軸は、冬季企画展において展示・活用された。(高橋 由美子)

②調査研究

十日町市博物館研究紀要を創刊した。「創刊にあたって」(石原正敏)、【論文等】「長岡における「犬の子朔日」の変遷」(阿部敬)、「ミュージアム・マネジメントの実践(1)―新十日町市博物館の取り組み―」(石原正敏)、【新刊紹介】「中手集落史「萬日記覚帳」中手地域づくり会編」。(阿部 敬)

③資料の保存

旧館の収蔵庫に収納されている、重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具」を新館の民俗収蔵庫に移動するため、10月25～28日に燻蒸作業を行った。合わせて、新規受け入れ資料の燻蒸も行っている。作業は専門業者に委託し、薬剤はエキヒュームSを使用した。(菅沼 亘)

3. 資料の貸出

①実物資料の貸出

貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土品の貸出は1件であった。（笠井 洋祐）

貸 出 先	資 料 名 (点数)	目 的 (展覧会名・会期など)
国立民族学博物館	越後縮・マジョリカ・黒絵羽織ほか40点	特別展「復興を支える地域の文化ー3.11から10年ー」(R3.3/4～5/18)
津南町なじよもん	城之古遺跡弥生土器ほか47点、牛ヶ首遺跡土器2点、新座原D遺跡石器1点、馬場上遺跡土器ほか30点、下ノ原遺跡土器65点、柳木田遺跡土器31点、上屋敷遺跡紡錘車1点、干溝遺跡土器ほか13点、内後遺跡土器1点、計191点	秋季企画展「魚沼地方の古代～山里のなりわいと交流～」(9/4～11/3)
長野県立歴史館	国宝・笹山遺跡火焰型土器 (No.2)、国宝・王冠型土器 (No.15)、国宝・深鉢形土器 (No.21・44) 4点、野首遺跡火焰型土器1点、幅上遺跡火焰型土器ほか6点、国宝・笹山遺跡火焰型土器 (No.1) レプリカ1点、計12点	秋季企画展「全盛期の縄文土器」(9/18～11/28)
長岡市馬高縄文館	干溝遺跡土器12点、久保寺南遺跡土器18点、石器14点、真秋田遺跡土器18点、清津宮峯遺跡土器3点、石器8点、おざか清水遺跡土器12点、田沢遺跡土器37点、石器16点、計138点	特別展「信濃川流域の縄文草創期・早期の土器文化」(9/25～11/23)
岩宿博物館	愛宕山遺跡舟底形石器1点	第75回企画展「相澤忠洋と岩宿時代研究」(10/9～11/28)
新潟県立歴史博物館	野首遺跡火焰型土器1点、野首遺跡王冠型土器1点、干溝遺跡微隆起線文土器1点、計3点	冬季テーマ展「やきもの産地・新潟」(R4.1/15～3/6)

実物資料の貸出一覧

②写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計133件（2月22日現在）、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡火焰型土器をはじめとする考古資料が約7割を占めている。使用目的では、教材・テストなど教育関連が最も多い。近年は200件近くの貸出があったが、今年度は大幅に減少した。（宮澤 早記）

貸 出 先 (放 送 局)	出 版 物 (番 組 名 / 出 演 者 等)	貸 出 資 料 (撮 影 内 容)	備 考
光村推古書院株式会社	かわいい古代 (著者：響田亜紀子)	国宝・笹山遺跡出土 深鉢形土器	書 籍
株式会社グレイル	国宝の地図帳 ハンディ版		書 籍
株式会社かみゆ	物語で読む 国宝の謎 100		書 籍
一般財団法人 小原流	「小原流 押花 11月号」 山田康弘執筆「縄文ってどんな時代」		雑 誌
株式会社NHKエンタープライズ	NHK番組『歴史探偵 「参勤交代」』		TV番組
株式会社 悠工房	「高校合格への道 要点と対策社会」	須恵器	教 材
戎光祥出版株式会社	図説 上杉謙信	カラムシ、青芋	刊行物
テレビ東京・BSテレビ東京	「新美の巨人たち」 ～国宝『火焰型土器』と 縄文アート × 本仮屋ユイカ～	博物館 展示室内 等(撮影)	TV番組
TBS系列 (BSN新潟放送)	「世界ふしぎ発見!」 ～縄文ワンダフルライフ～ 出演者：草野仁、黒柳徹子、野々村真 出水麻衣、本上まなみ 葉山奨之、岡田圭右 (ミステリーハンター) 井浦新・中山卓也		TV番組
BSテレビ東京	「戦国三大武将の経済学」		TV番組

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

4. その他の事業

①スノーカントリーミュージアム事業

本事業は、文化庁の文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業に伴うものである。令和2年に認定された十日町市の地域計画「とおかまち スノーカントリーミュージアム―雪の中のARTS & CULTURE―」の中で、博物館は文化観光拠点施設のひとつに位置付けられている。以下の事業を実施した。

博物館資料デジタルアーカイブ化事業

国宝・笹山遺跡火焰型土器群のデジタルアーカイブ作成に向けて、国宝に指定されている土器62点（深鉢57・浅鉢5点）の三次元計測データを取得した。公募型プロポーザルにより業者を選定し、凸版印刷株式会社に作業を委託している。計測にあたっては、非接触方式でハンディタイプの三次元計測機を使用した。計8日間をかけて、土器62点の計測が終了している。

博物館多言語対応事業

既存の音声ガイド（日本語・英語）に、中国語（簡体・繁体）、タイ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語を追加した。また、QRコード読み取りによるスマートフォン対応の音声ガイドを新たに製作している。

博物館所蔵文化遺産体験事業

本事業は、博物館が所蔵する国宝と重要有形民俗文化財への理解をより深められるよう、観光客にこれらを体験する機会を提供するものである。市内の事業者や宿泊施設に業務を委託して、縄文土器風焼き物体験（株式会社当間高原リゾート）、ほんやらどう体験（松之山温泉合同会社まんま）、積雪期用具を活用した雪国の生活体験（十日町市観光協会）を開催した。雪国の生活体験は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となっている。

博物館所蔵文化財に関する人材育成事業

本事業は博物館が所蔵する文化財に関連し、地域に伝承されてきた技術を継承する人材を育成するものである。博物館友の会に業務を委託して、雪国の暮らし体験教室を開催した。体験メニューは、アンギン編み（11月28日）、シメナワ作り（12月12日）、チンコロ作り（令和4年1月16日）、郷土料理作り（令和5年2月6日）、募集定員は各回10人（参加費無料）である。郷土料理作りは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となっている。



シメナワ作り

文化財を活用した商品開発事業

本事業は、博物館が所蔵する文化財を活用した商品開発に取り組むものである。博物館友の会に業務を委託した。外部（6人）と内部メンバー（2人）で構成されるワークショップを計3回開催している。外部メンバーには、博物館のミュージアムショップに商品を納品している業者を含む。雪をテーマにした菓子の試作品1点を製作した。

拠点施設連携企画展等開催事業

本事業は、文化観光拠点施設である博物館と森の学校キョロロ、十日町情報館が相互に連携して企画展等を行い、観光客の周遊を向上させ、入館者の増加を図るものである。令和4年3月10日（木）から23日（水）に山内写真館資料写真展「心に残ったわたしの1枚」を開催した。会場は十日町情報館ギャラリー、会期中の入場者は1,500人である。これに合わせて、キョロロがミニ企画展示「雪虫展」を行い、情報館は雪や昔のくらしに関連する図書の特設コーナーを設置している。



山内写真館写真資料展

②雪文化三館提携事業

3館相互の入館者数増加を図り、3館提携事業を広く周知するため、スタンプラリー及び2割引きの優待付きパンフレットを10,000部増刷し、観光施設等のほか高速道路SAへ配置をした。スタンプラリーについては、3館すべての押印が終了した来館者に記念品を贈呈しており、令和3年度の当館でのスタンプラリー達成者は14名であった。通常の連絡会議のほか、令和4年度に提携30周年を迎えることから、記念事業の検討会議をZoomやメールを用いて計8回行った。(興野 裕貴子)

5. 博物館友の会

博物館友の会は昭和54年(1979)に発足し、会員は令和4年2月末現在で約600名である。植物・古文書・いしぶみ・歴史・民俗・方言・考古・きものの8つの研究グループが、研究活動を行っている。今年度の主な活動は以下のとおりである。4月の総会と6月の文化財めぐり、令和4年2月の雪まつり・はくぶつかん広場は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。

令和3年

5月15日(土) 「火焰」140号発行

巻頭言(博物館長・石原正敏)、令和2年度・事業報告、令和3年度・事業計画・予算・役員、友の会規約改正、令和2年度・研究グループ発表会、令和3年度・博物館事業のお知らせ、ミュージアムショップ新商品紹介

7月10日(土) 庚申供養祭(参加者:20人)、研究グループ活動・中間報告会

9月11日(土) 「火焰」141号発行

巻頭言(博物館副館長・菅沼 亘)、博物館と佐野良吉氏との思い出(滝沢 榮輔氏)、6~7月の活動報告、秋季特別展の案内

10月14日(木) 第91回文化財巡り「北方文化博物館と新潟古町芸妓の舞 鑑賞の旅」

参加費5,000円、参加者27名

12月11日(土) 3研究グループ合同研修会「妻側からの離縁状・その後」(参加者:60人)

講師:本田 雄二氏(新潟県立文書館)

会場:十日町情報館 視聴覚ホール



庚申供養祭



文化財巡り

令和4年

2月5日(土) 「火焰」142号発行

巻頭言(新潟県立文書館・本田 雄二氏)、8~12月の活動報告、第91回・文化財巡りに参加して、博物館の事業案内

3月12日(土) 研究グループ発表会(会場:博物館 講堂)

植物「魚沼丘陵の植物」

古文書「太平村皇国地誌写本をめぐる考察」

いしぶみ「不思議な石仏」

民俗「妻有の雑煮」

方言「朝・昼・夕・夜のことば」

考古「岡本太郎と縄文」

きもの「明石ちぢみと十日町小唄」展への取り組み



研究グループ発表会

(菅沼 亘)

Ⅲ 調査・報告

報 告

博物館展示における三次元計測データの活用

菅 沼 亘

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大から約2年が経ち、博物館の在り様が大きく変わった。館の運営では、来館者の入館時における事前予約、マスクの着用、検温、手指消毒、また、講演会などイベントの人数制限などである。展示活動では接触感染防止のため、各種の体験型展示や複製品等を利用したハンズオン展示が中止を余儀なくされている館も多い。当館は、全都道府県に適用された最初の緊急事態宣言解除直後、令和2年（2020）6月1日に新館がオープンし、その当初より感染症対策を行った上で、高精細複製品を利用したハンズオン展示を続けている。本稿では、三次元計測データにより製作した高精細複製品の活用について、製作の経緯と今後の展望も含め報告する。

2. 複製品とは

博物館の資料展示は実物の展示が基本であるが、複製品（レプリカ）の展示もよく見られる展示手法である。また、複製品は照明などによる実物資料の劣化を防ぐため、その代わりとしてケース内に展示される例が多く、最近では来館者が触れることのできる複製品（ハンズオン）も増えている。

複製品には土器などの立体物と、古文書や絵画など平面的な資料を対象としたものがある。立体物の複製に多く用いられる方法が「型取り」である。この方法では実物から直接、型を取るため、実物に近い形状の複製品を製作できる半面、資料を傷めてしまう可能性がある。その原材料の多くは樹脂である。平面的な資料の複製では、実物を撮影した写真が使用される。

当館所蔵の国宝・笹山遺跡火焰型土器群は、平成3年（1991）に火焰型5点（指定番号1・5～8）、王冠型2点（指定番号15・16）、平成10年には火焰型2点（指定番号2・14）について、型取りによりFRP樹脂の複製品が製作されている。その際に使用されたシリコン樹脂とその外側を補強する硬質樹脂製の型枠（指定番号1・6・7・8・15・16）が旧館収蔵庫に残されていた。当時、複製品を製作した業者の作業報告書を参考に、その製作工程をまとめると以下のとおりである。

- ①^{すずはく}錫箔の貼り付け：^{ふのり}布海苔を使って、錫箔を土器の全面に貼り付ける。
- ②シリコン樹脂の塗布：錫箔の上からシリコン樹脂を塗る。
- ③型の製作：シリコン樹脂の上を、硬質の樹脂で補強して型を製作する。その後、型を分解して土器を取り出す。
- ④樹脂の流し込み：再度、型を組み合わせ、その中にFRP樹脂（ガラス繊維補強プラスチック）など、複製品の材料となる樹脂を流し込む。
- ⑤原型の製作：樹脂が固まった後に型を外すと、原型ができ上り、その後、原型の表面を整形する。
- ⑥彩 色：実物を見ながら、原型に彩色する。

近年、この型取りによる複製品に代わるものとして、非接触方式による三次元計測データを利用して製作された、高精細複製品が注目されている。その製作は単に形を写し取るだけでなく、計測データからは資料の構造や製作技法などの情報を得ることができる。

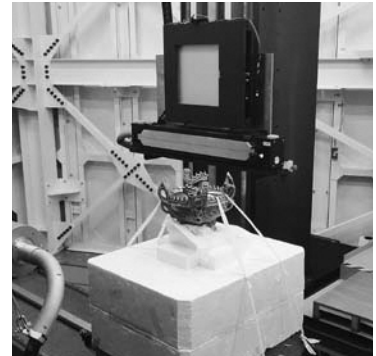
3. 国宝「火焰型土器」高精細複製品の製作

平成26年度の基本構想作成で始動した新館建設事業は、翌27年度に基本計画が策定され、28年度には基本・実施設計が進行していた。また、当時、市の施策として2020東京オリンピック・パラリン

ピックに向け、国宝・火焰型土器をはじめとする縄文文化の魅力を、国内外に広く情報発信する事業が盛んに行われていた。そして、基本設計が始まり、縄文時代展示室での新たな展示方法を摸索していた中、平成28（2016）年7月に東京国立博物館よりX線CT装置と非接触方式の三次元計測機を使用した、国宝・火焰型土器のデジタルデータ化の提案を受けた。

事業の実施は共同研究とし、平成28年12月6日付で東京国立博物館、十日町市博物館、大塚オーミ陶業株式会社の三者により、「三次元計測及びX線CT計測データを活用した考古資料の新たな展示方法の開発に関する覚書」が取り交わされている。当時、大塚オーミ陶業株式会社はキトラ古墳壁画の陶板製で精巧な複製（原寸大）や、三次元計測データを利用した重要文化財「火焰土器」（新潟県長岡市所蔵）の複製を焼き物で製作した実績があった。

計測する指定品は、国宝を代表する指定番号1の火焰型土器（総高46.5・最大径43.8cm・重量7.4kg）と、指定番号15の王冠型土器（総高27.2・最大径28.6cm・重量2.6kg）と決まり、平成28年12月11日（日）、東京国立博物館に国宝2点が持ち込まれた。計測作業は翌12日（月）から16日（金）まで行われている。X線CT撮影は火焰型土器が3時間、王冠型土器は1時間30分程かかり、表面スキャンは火焰型土器が3日、王冠型土器は2日間を要した。そして、取得した三次元計測データを活用するため、地方創生推進交付金を利用して、平成30年（2018）に火焰型土器、平成31年（2019）に王冠型土器の高精細複製品（陶製）を製作している。



X線CT装置による撮影



三次元計測機による計測

高精細複製品（陶製）の製作工程は、以下のとおりである。

- ①計測データの編集：光学式の三次元計測機では、資料の大きさや形の三次元座標（X・Y・Z）と色情報（R・G・B）を点群データとして取得することができる。この点群データは、そのままでは3Dプリンターで原型を出力できないため、使用するプリンターに合わせてデータを変換する必要がある。また、三次元計測機では火焰型土器の鶏頭冠突起の内側など、計測できない部分が出てしまう。データが不足する部分についてはX線CT撮影のデータで補うことになる。
- ②原型の製作：3Dプリンターで出力した原型から石膏型を製作する。陶製の複製品では、焼成による収縮を考慮して、実物より約15%大きい原型が出力される。
- ③陶土原型の製作：石膏型に粘土を押し付けて、陶土原型を成形し、その後、乾燥させる。
- ④彩色：釉薬で全体を仕上げた後に、写真で確認しながら、煤けや色むらなどが実物に近くなるよう彩色する。
- ⑤焼成：電気窯で焼成する。彩色と焼成を繰り返し、色合いが実物により近くなるようにする。

製作された複製品は、実物とほぼ同じ大きさ、重量で、焼き物であるため、触れた時の質感も実物に近いものとなる。なお、樹脂製の高精細複製品の場合は、3Dプリンターで出力された原型の積層痕を人の手で調整した後に型取りを行い、金属棒などを使って実物と同じ重量に調整した原型を製作し、その後に彩色が施される。

この三次元計測データを利用した製作方法では、直接、資料に触れることなく計測が行われるため、従来の型取りによる製作に比べ、実物資料を傷つける可能性が格段に低くなる。また、資料の表面と断面の計測データを利用することで、より正確な実物の形状復元が可能になった。なお、上記の製作工程については、大塚オーミ陶業株式会社及び独立行政法人国立文化財機構・文化財活用センターより教示を受けた。

4. 高精細複製品の活用

完成した高精細複製品は、「触れることのできる国宝」として、平成30年4月から博物館ロビー（現在は旧館）で展示され、成人式などの市主催イベントで活躍してきた。新館の「縄文時代と火焰型土器のクニ」展示室では、X線CT装置で撮影された断面画像（垂直・水平方向）を連続させて編集した動画（東京国立博物館提供）を見ることができるモニターが隣接して設置され、国宝・火焰型土器の断面構造もわかる展示となっている。



展示室での活用

新館がオープンして1周年を迎え、令和3（2021）年6月1日（火）から7月4日（日）

には、これを記念して夏季特別展「形をうつす—文化財資料の新たな活用—」を開催した。本展は、三次元計測データを利用して製作された高精細複製品とその実物資料を展示して、文化財の新たな活用方法を紹介するものである。東京国立博物館所蔵の重要文化財「遮光器土偶」（青森県亀ヶ岡遺跡）は「日本で一番有名な土偶」と呼ばれており、今回、国宝「火焰型土器」との競演が実現した。この遮光器土偶も、平成31年（2019）にハンズオン用の高精細複製品（樹脂製）が製作されている。



イベントでの活用

展示構成は、「Ⅰ 複製品とは」、「Ⅱ 高精細複製品ができるまで」である。「複製品とは」では、前述の旧館収蔵庫に残されていた型枠を展示して、型取りによる複製品の製作工程を解説した。また、型取りによる複製品の代表として、国宝指定の土偶「縄文のビーナス」・「仮面の女神」（原品：茅野市所蔵）、「合唱土偶」（原品：八戸市所蔵）、「中空土偶」（原品：函館市所蔵）、「縄文の女神」（原品：山形県所蔵）、計5点の複製品を一堂に展示している。「高精細複製品ができるまで」では、国宝「火焰型土器」と重要文化財「遮光器土偶」の高精細複製品の製作工程を解説すると共に、その活用について紹介した。



夏季特別展のハンズオンコーナー

この他、展示室の一角にハンズオンのコーナーを設置している。東京国立博物館所蔵の重要文化財「遮光器土偶」、同「みみずく土偶」（埼玉県真福寺貝塚）、「ポーズ土偶」（山梨県笛吹市上黒駒）の高精細複製品（樹脂製）と国宝「火焰型土器」の高精細複製品を展示して、観覧者が文化財をより身近に体感できる空間とした。なお、重要文化財「遮光器土偶」の複製品には前後で分割し、中空の内部を観察できるものもある。これらは平成31年（2019）に製作されている。



ハンズオンでの活用

会期中の6月20日（日）には、記念イベント「形をうつす」を開催した。製作実演「現代の技術で生み出す国宝・火焰型土器」と、DOKI・DOKIワークショップ「オンリーワンの火焰型突起を作ろう！」が行われ、大塚オーミ陶業株式会社（信楽工場）の協力を得ている。製作実演では、実際に使用された国宝の石膏型が持ち込まれ、前述した陶土原型の成形が再現された。ワークショップは小学生を対象としたもので、型に粘土を押し当て、火焰型土器の鶏頭冠突起を作るという内容である。参加者が作った突起は、後日、信楽で焼成され、各参加者に届けられている。

会期中に実施したアンケート（回収率8.3%）を見ると、特別展の満足度は「とても良い」58.6、「良

い」30.7、「普通」5.8、「あまり良くない」0.8、「良くない」0、「未回答」4.1%であり、観覧者の約90%が満足という結果であった。「ハンズオン展示で特に印象に残った複製品は」の質問では、「遮光器土偶」47.4、「火焰型土器」31.2、「遮光器土偶」（分割型）26.6、「ポーズ土偶」23、「みみずく土偶」21.1%で、遮光器土偶に対する関心の高さがうかがえる。また、「複製品の展示を通して、その実物資料の見方に変化があったか」の質問では、約半数が変化があったと答えている。さらに、「複製品を見て、その実物を見に行きたくなったか」の質問では、約8割がそう思うと回答している。

5. 最後に

高精細複製品は、実物資料の代替品としてガラスケースなしで、間近に見ることができ、さらに、形状だけでなく、大きさ、重量も実物とほぼ同じであるため、来館者が「さわって楽しむ」複製品としても活用可能である。そして、土器や土偶などの立体物の他に、屏風や絵画などでも、超高解像度の写真データを利用した高精細複製品の製作が行われている。限りなく本物に近い高精細複製品は耐久性があり、屋外での撮影やプロジェクターを使った映像の投影、調度品として商業施設で展示するなど、これまでになく幅広い用途で利用されている。高精細複製品による文化財資料の新たな活用は始まったばかりである。



屋外での活用（撮影：小川 忠博）

レプリカ（複製品）はホンモノ（実物）に勝てない、それは当然である。しかし、三次元計測技術の登場により、その間の溝は以前に比べ格段に埋まりつつある。また、究極のハンズオン展示は、実物に触れることであるが、大量にある土器片や民具類などは別として、国宝や重要文化財指定品などの希少資料は不可能に近い。この究極のハンズオン展示に限りなく近づくことができる方法が高精細複製品といえる。

当館では本年度、国宝・火焰型土器群のデジタルアーカイブ作成に取り組むため、国宝に指定されている土器62点（深鉢57・浅鉢5点）の三次元計測データを取得した。計測作業は業者に委託している。計測にあたっては、小型軽量で非接触式の三次元計測機を使用した。計測精度は点間距離0.5mm以下とし、また、色情報を得るため、カラー点群での計測も行っている。これにより、ディスプレイ上で土器の三次元イメージを表示するだけでなく、3Dプリンターを使用した立体造形物の製作も可能となる。令和5年度内を目途にデジタルアーカイブを作成し、常設展示室内及びウェブ上で公開の予定である。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、最近では展示室内の動画や所蔵資料の高精細画像をデジタルアーカイブとして公開する館が増えている。ウィズ・コロナを見据えた中での対策であるが、コンテンツ利用者が高精細の動画や画像に満足しただけで終わるのではなく、より多くの利用者が博物館に足を運び、その実物資料を実際に見てもらうことが本来の目的である。これを忘れることなく、博物館資料のデジタル化を進めて行きたい。

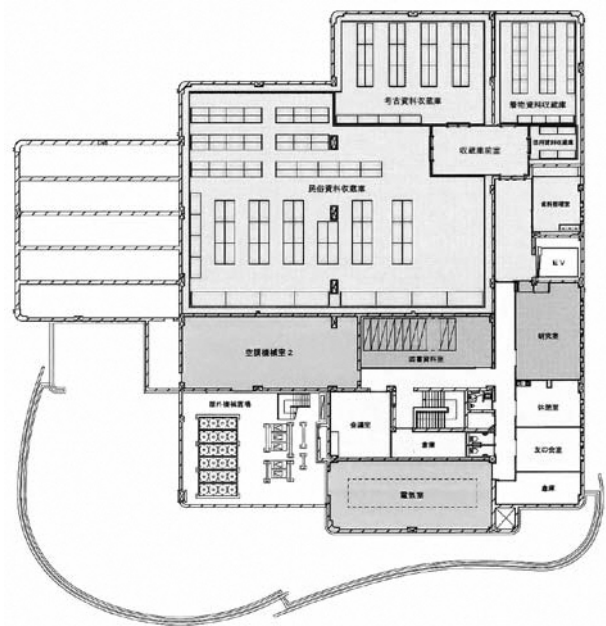
参考文献

- 大河内 智之 2021「博物館がつなぎ公共で支える地域資料 ―仏像盗難をめぐる問題を通じて―」『発信する博物館』ジダイ社
黒澤 浩 2016「さわる展示の未来 ―南山大学人類学博物館の挑戦」『ひとが優しい博物館』青弓社
小島 道裕 1993「博物館とレプリカ資料」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集
佐野誠市・品川欣也・大杉栄嗣 2021「触れることのできる国宝の作成」『月刊 文化財』692号
鈴木 康二 2012「レプリカ展示の意義と限界 ―さわることで何がわかるのか」『さわって楽しむ博物館』青弓社
文化庁編「手で触れることのできる国宝 土器の高精細レプリカ」『先端技術による文化財活用ハンドブック』

〈施設 平面図〉



1 階



2 階

1 階 面積表

エ リ ア	室 名	面 積	小 計	合 計
交 流	風除室	13.61	367.47	1834.96
	エントランスホール	167.03		
	ミュージアムショップ	10.58		
	講堂	70.27		
	体験室	37.36		
	WC・授乳室・廊下	68.62		
常設展示	導入展示室	100.00	833.65	
	常設展示室 1	277.78		
	うち国宝展示室	(52.36)		
	常設展示室 2	216.74		
	常設展示室 3	212.10		
	通路	27.03		
企画展示	企画展示室	136.98	141.91	
	出入口	4.93		
管 理	受付	12.73	376.39	
	事務室	64.39		
	管理共用	104.85		
	荷解室	35.78		
	トラックヤード	64.40		
	清掃用具庫	6.43		
	資料一時保管庫	9.39		
	展示室前室	32.14		
	展示準備室	30.27		
	E V	16.01		
設備機械	空調機械室 1	80.66	115.54	
	ガスボンベ庫	18.07		
	消火ポンプ室	16.81		

2 階 面積表

エ リ ア	室 名	面 積	小 計	合 計
収 蔵	収蔵庫前室	36.98	773.01	1271.72
	民俗資料収蔵庫	457.64		
	考古資料収蔵庫	132.21		
	着物資料収蔵庫	73.34		
	借用資料収蔵庫	16.28		
	資料整理室	26.20		
	E V 前廊下	30.36		
調査研究	研究室	47.88	99.48	
	図書資料室	51.60		
管 理	会議室	31.45	215.85	
	友の会室	21.69		
	休憩室	23.06		
	倉庫	34.64		
	管理共用	89.00		
	E V（荷物用）	16.01		
設備機械	空調機械室 2	97.28	183.38	
	電気室	86.10		

面積集計表

エ リ ア	1 階	2 階	小 計	比 率 (%)
交 流	367.47	0	367.47	11.8
展 示	975.56	0	975.56	31.4
収 蔵	0	773.01	773.01	24.9
調査研究	0	99.48	99.48	3.2
管 理	376.39	215.85	592.24	19.1
設備機械	115.54	183.38	298.92	9.6
合 計	1834.96	1271.72	3106.68	100.0

〈利用案内〉

- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料 一般500円（団体20人以上400円）
中学生以下無料
＊特別展は別途料金が必要
- 休館日 毎週月曜日（国民の祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月28日～1月3日）
- 所在地 〒948-0072
新潟県十日町市西本町1-448-9
TEL: 025-757-5531 FAX: 025-757-6998
e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
<https://www.tokamachi-museum.jp/>
- 交通 ほくほく線・JR飯山線・十日町駅から徒歩10分
関越自動車道・六日町ICから車30分
関越自動車道・越後川口ICから車30分
北陸自動車道・上越ICから車80分
上信越自動車道・豊田飯山ICから車80分
- 駐車場 第1：普通車16台・障がい者用2台、第2：普通車26台・大型バス3台
- サービス 音声ガイド貸出（日本語・英語・中国語・タイ語・フランス語・イタリア語・ポルトガル語：有料）、ミュージアムショップ、自動販売機
授乳室、多目的トイレ、ベビーカー・車椅子貸出（無料）、コインロッカー（無料）
- その他 館内撮影可能（企画展示室除く、三脚・フラッシュ使用禁止）
館敷地内全面禁煙、展示室内飲食禁止（アメ・ガム含む）



〈令和3年度 博物館職員〉

館長	石原 正 敏（学芸員）	会計年度任用職員	田 村 薫（調査研究員）
副館長	菅 沼 亘（学芸員）	〃	引 間 佳 子（6月まで）
副参事	笛 田 晃（業務係長）	〃	春 川 奈 嘉 子
〃	相 崎 文 幸	〃	宮 澤 早 記（7月から）
主 査	高橋 由美子（学芸員）	〃	山 田 ま り（7月から）
〃	笠 井 洋 祐（学芸員）		
〃	阿 部 敬（学芸員）		
〃	興野 裕貴子		
主 任	黒 田 朋 美		
〃	本 柳 美 紀（学芸員）		
主 事	田 村 典 子		

十日町市博物館 年報 第8号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-448-9 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998
URL: <http://www.tokamachi-museum.jp/> / e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
発行日：令和4年(2022)3月31日 印刷：株式会社 滝沢印刷